

## 〈展示会報告〉

旧広島市民球場開場六〇年記念展示

### 文書と写真でたどる旧広島市民球場

#### 一 趣旨

旧広島市民球場は、昭和三二（一九五七）年七月二三日、基町に開場した。旧市民球場は、誕生間もないプロ野球球団カープを支えるため、待望のナイター照明設備を備えた球場として建設された。財源の確保や建設地の選定など様々な課題があったが、市民や政財界が一丸となって取り組み、完成に至った。以後、昭和五〇（一九七五）年の栄光のリーグ初優勝までの苦難の歴史を見守り、さらにはカープの黄金期の歓声が響いた施設でもあった。

本年度は、旧市民球場開場から六〇年にあたることから、公文書館では、平成二九年度の企画展示として「旧広島市民球場開場六〇年記念展示 文書と写真でたどる旧広島市民球場」を開催した。

#### 二 展示概要

展示会では、当館に移管された旧市民球場管理事務所資料や多くのカープファンの方々からご寄贈いただいた資料等を基に、カープの歴史も織り交ぜながら往時の旧市民球場の歴史を紹介した。暑い時期にも関



写真1 展示会ポスター

わらず、カープファンの小学生から、広島野球倶楽部時代からのファンまで、多くの市民の皆さんにご来館いただいた。また、好評につき、当初の開催期間を一ヶ月延長した。本稿では、その展示の概要と資料の一部を御紹介する。

#### (1) 展示会場

広島市公文書館七階ロビー・閲覧室

#### (2) 展示期間

平成二九年七月三日（月）～九月二九日（金）

#### (3) 入場者数（期間中の来館者数）

一、一七三人

#### (4) 展示資料数

全五四点

#### 三 展示内容

##### 1 広島と野球

広島に野球が入ってきたのは明治二二～二三（一八八九～九〇）年頃とされている。記録で確認できる最も古い試合は、広島県参事官・佃一予の転勤送別ベースボール会として、旧制広島中学（現広島国泰寺高校）と広島県師範学校（現広島大学教育学部の前身の一つ）が行った対校試合である。明治三〇年代前半になると広島商業学校に野球部が誕生するなど中等学校で野球熱が高まり、広島地区四校（広島中学・明道中学・佛教中学〔現崇徳高校〕・広島商業学校）、県東部地区一校（福



写真2 広島中学野球部記念写真 大正4(1915)年  
広島野球倶楽部創立に関わった政治家谷川昇氏の旧蔵品。  
後列左から3番目が谷川氏。

山中学（現福山誠之館高校）、呉・県南地区二校（呉中学〔現呉三津田高校〕・豊田中学〔現忠海高校〕）、県北部地区二校（三次中学・日彰館中学）に野球部が誕生した。

明治三〇年代後半には近県中等学校野球大会が開催され、広島中学・岩国中学・尾道商業学校などの学校が錦を削った。明治四〇年代になると、広島高等師範学校（現広島大学教育学部の前身の一つ）や広島市商工組合主催の近県野球大会が行われており、広島商業学校や第六高等学校（現岡山大学）、広島県師範学校、広島中学、明道中学、修道中学、広陵中学、佛教中学、呉製図倶楽部、小町倶楽部などが参加した。

大正年間に入ると新聞社主催の中等学校野球大会が開催されるようになる。大正四（一九一五）年に第一回全国中等学校優勝野球大会が開催されると、地方予選決勝では広島中学と広島商業がぶつかり広島中学が勝利した。その後も両校の試合は人気を博し、「広島の前早慶戦」と称された。一九一〇年代後半からは広島商業、一九二〇年代には広陵中学、一九三〇年代には大正中学（現呉港高校）が台頭した。

中等学校野球人気を背景に、町内や学校単位での少年野球も盛んとなった。また中学校の卒業生によって、地域の



写真3 広島商業野球団歓迎試合於アラメダ市 昭和6(1931)年8月12日

広島商業野球部は選抜大会優勝の特典として、この年7月から8月にかけてカナダ、アメリカに遠征した。これは、カリフォルニア州アラメダ市で行われた広島県人会主催の歓迎試合の記念写真。この試合は2-3で惜敗した。

クラブチームや実業団のチームも作られていった。こうして、広島は「野球王国」としての風土を醸成したのである。

## 2 広島とプロ野球

戦前の職業野球では、東京巨人軍の田部武雄や白石勝巳、大阪タイガースの藤村富美男や小川年安など多くの広島県出身の選手が活躍した。昭和十一（一九三六）年五月三十一日には大阪タイガースと金鯱軍のオープン戦、同七月二八日には東京巨人軍と大阪タイガースの試合が広島グラウンドで行われている。

昭和二〇（一九四五）年八月六日、原子爆弾投下により、広島は壊滅的被害を受けた。しかし、戦後間もない昭和二二（一九四六）年には広島でプロ野球チーム巨人軍とグリーンバークの練習試合が行なわれている。

広島でプロ野球チーム設立の機運が高まるのは、昭和二四（一九四九）年四月のことである。日本野球連盟総裁の正力松太郎によってプロ野球二リーグ構想が表明され、全国的にプロ野球球団設立の動きが活発になるなか、同年五月二二日に広島総合大学設立資金募集のため開催された阪神対東急戦が興行として成功すると、広島財界・官界にプロ野球球団設立の機運が生まれた。プロ球団設立を具体化させていった中心人物は公職追放のため代議士の職を追われていた谷川昇である。谷川は元金鯱軍代表の山口勲や赤嶺昌志に働きかけ、当時中国新聞東京支社通信部長であった河口豪と協力して球団設立の準備に奔走し、九月二八日付で球団設置を連盟に申請し、「カープ」は誕生した。



写真4 株式会社広島野球倶楽部株券

昭和25(1950)年10月30日

広島野球倶楽部の株券は一株50円で募集された。地方自治体や企業だけでなく、カープを支えるファンは、個人や職場有志等でお金を出し合い、株券を購入した。

3 「広島市民球場」の誕生

昭和二四年に結成されたカープは、当初県営広島総合球場をホームグラウンドとして利用していた。しかし、市内中心部からの交通の便が悪く、グラウンド面積が狭かったため、早くから新球場建設、あるいは球場改修案が浮上していた。また、昭和二八（一九五三）年以降は当時プロ野球の本拠地球場では主流となりつつあったナイター設備を要望する声が高まってきた。

新球場建設に向けて複数の候補地や建設案が出されたが、昭和三二（一九五七）年七月には中央公園東南角の広島復興事務所、県土木出張所、市下水課分室にまたがる一万坪への建設が決まった。建設予定地の諸施設の移転場所、補償等も決着し、翌三三年二月二二日には第一期工事の起工式が行われた。建設費用としては、前年一月、地元財界の十社から寄付された一億六千万円があてられた。

約五ヶ月の工期を経て、第一期工事は七月二〇日に完成した。二二日には球場にて、地元選出国會議員、県知事、市長、球場建設資金を寄付した財界十社の代表をはじめとする約千人が出席し、竣工式が開催された。式典の後、広島対南海の二軍戦、市長による点灯式が行われた。

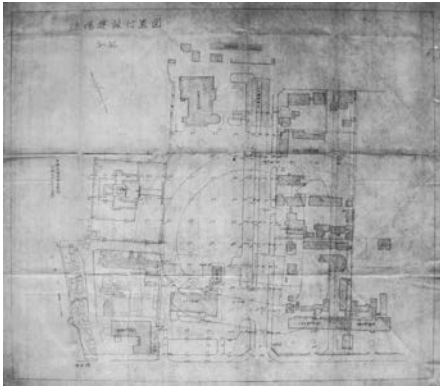


写真6 球場建設位置図 昭和32(1957)年ごろ  
最終的な球場建設予定地の図面。写真5の簿冊に綴られていたもの。中央公民館、広島県広島土木出張所、護国神社等の既設建物と球場の位置関係がわかる。

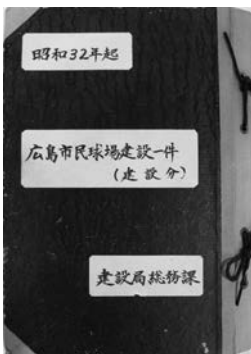


写真5 昭和32年起 広島市民球場建設一件（建設分）  
寄付受納伺、国有財産（土地）使用承認願、興行場営業許可申請、設計委託契約など、球場建設に係る各種起案文書の綴。

写真9



写真7 旧市民球場建設直前の基町一帯 時期不詳  
基町一帯を北側から撮影したもの。

写真7



写真8 工事中の旧市民球場 昭和32(1957)年3月10日  
敷地造成中の様子。右側は現相生通り。奥に新築の県庁が見える。右手前、中央奥にはまだ民家が残っている。（「広島市民球場建設工事」より）



写真8

写真9 完成した旧市民球場 昭和32(1957)年7月22日  
第一期工事を経て完成した旧市民球場は、収容定員1万7442人、センター115.8m、両翼90.4m、グラウンド面積1万2160㎡で、外観は1塁側、3塁側の内野スタンドが極端に低いという特異なものだった。

#### 4 旧市民球場の運営

旧市民球場は税金でなく地元財界からの寄付により建設された。しかし、建設地が国有地であったため、国に対する賃借料が必要であった。通常地方公共団体が非営利目的で使用する場合は賃借料が減免されるが、営利事業であるプロ野球の試合に使用されるため有償となった。市中心部の広大な土地であるため賃借料も高額であり、その負担については、協議の結果カープの球場使用料から支払うことで決着した。

さらに、プロ野球公式戦を開催する球場として運営上必要となる増改築・補修等の経費については、特別会計予算の年度末残額を「市民球場の改良その他の資金に充てる」こととなり、昭和三五(一九六〇)年「広島市民球場積立金」が設けられた。積立金は昭和四〇(一九六五)年度から「広島市民球場基金」となった。条例により「基金」には、①市民球場特別会計の歳計剰余金の八割以上※1と、②公式試合の一開催日の入場者数が二万人※2を超えたとき、カープから徴収した追加使用料を繰り入れることが規定された。基金は施設改修のたび取り崩されたが、廃止直前の平成二〇(二〇〇八)年十二月時点の残額は、九億五千万円に上っていた。



写真 10 第二期工事完成後の旧市民球場

昭和 33(1958)年 7 月 31 日

完成した旧市民球場は、オールスターゲームの開催要件である収容定員 3 万人を満たしていなかったため、すぐに第二期工事に着手。この工事により 3 階スタンドも増設され、収容定員 24,500 人となった。初のオールスターゲーム(第 2 戦)は 7 月 29 日に開催された。

#### 5 旧市民球場の利活用

旧市民球場は、プロ野球公式戦以外にも様々な用途で使われた。昭和三三(一九五八)年のオールスターゲーム、日米交歓野球をはじめ、アマチュア野球では、全国高等学校野球選手権大会広島大会や、全国都市対抗野球大会広島県予選などで熱戦が繰り広げられた。

一九六〇年代にはサッカーの試合会場としても使用され、日ソ交歓試合や日本サッカーリーグ(JSL)の東西対抗戦などが開催された。また、昭和三〇年代にはプロレス興行も行われている。

市民が参加するイベントとしては、広島まつり(広島市・中国新聞など共催)や日本体操祭(日本体操協会主催)などが開催された。さらに、ミュージシャンやアーティストによるライブ会場としても使用されており、奥田民生(平成十五(二〇〇三年)、さだまさし(平成十九(二〇〇七年)年)などのライブが行われた。

旧市民球場の利用実態は、概ねカープの公式戦及び練習日が年間合計の三〜四割、学生・社会人野球や一般利用、イベント等での利用が六〜七割で推移した。



写真 11 昭和 33 年全国高等学校野球選手権広島大会決勝戦

昭和 33(1958)年 7 月 明田弘司撮影(寄託資料)

旧市民球場は開場翌年のこの年から平成 22(2010)年まで、全国高等学校野球選手権広島大会(夏大会)の試合及び開会・閉会式の会場として利用された。この試合は、尾道商業が広島商業に勝って優勝した。

※1: 昭和五八(一九八三)年度から全額に改正。  
※2: 昭和五二(一九七七)年度から二万人に改正。

## 6 カーブと旧市民球場

平成二八(二〇一六)年、カーブは二五年ぶり七度目のリーグ優勝を成し遂げた。カーブが旧市民球場を本拠地として使用した昭和三二年から平成二〇年の間の優勝は六回、地元胴上げは三回(一九七九・二九八四・二九九一年)である。日本シリーズは六回開催され、昭和六一年には史上初の第八戦が行われた。また、オールスターゲームは十回開催され、多くの名選手による熱戦が繰り広げられた。一方で過熱したファンによって起こされた昭和五〇年九月の球場騒擾事件や、平成二(一九九〇)年五月のクモ男事件など、球史に残る珍事件の舞台となったことでも知られている。

個人記録では、高橋慶彦選手の三三試合連続安打の日本新記録や衣笠祥雄選手の二二二試合連続出場の世界記録(当時)樹立の舞台ともなった。

約半世紀の間、様々なスポーツ、イベント、市民活動の場として活躍した旧市民球場は平成二二(二〇一〇)年十一月に解体工事に入り、現在の広島市民球場(MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島)へ引き継がれていくことになった。



写真 12 カーブ初優勝を喜ぶファン  
昭和 50(1975)年 10月

10月15日、カーブは後楽園球場で巨人に勝利し、リーグ初優勝が決定した。これは20日に行われたパレードの様子。(玉田和則寄贈)

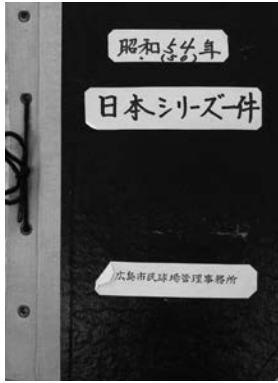


写真 13 日本シリーズ一件綴  
昭和 50～61(1975～1986)年  
日本シリーズやセリーグ優勝時の  
行事に関する文書綴

おわりに

今年度は高校野球もプロ野球も地元チームの活躍が際立った。展示のため資料を確認・選択する作業は、地元の球場建設やカーブに対する熱い思いを感じる時間でもあった。旧市民球場引継ぎ資料は、資料整理完了後、デジタルアーカイブ・システムで公開する予定である。

最後に、今回の展示にあたり資料提供等についてご協力いただいた皆様に深く感謝の意を表したい。

### 展示資料一覧

- 一 広島中学野球部記念写真【写真】一九一五年 谷川昇資料
- 二 広島商業野球団歓迎合於アラメダ市【写真】一九三二年八月十二日 六谷新寄贈

### 資料

- 三 県庁建設予定地で野球大会【写真】一九五三年 明田弘司寄託資料
- 四 社団法人日本野球連盟宛加盟願草稿【複写資料】一九四九年九月二九日 谷川昇資料
- 五 目論見書 一九五〇年三月五日 津田一男資料
- 六 株式募集明細書【複写資料】一九五〇年四月二六日 津田一男資料
- 七 株式会社広島野球倶楽部株券 一九五〇年十月三〇日
- 八 市営球場建設促進決議案【複写資料】一九五五年七月三〇日 議会事務局議事課
- 九 第六回広島市民球場建設対策委員会々議録について 一九五六年十二月十日
- 一〇 昭和三二年起広島市民球場建設一件(建設分) 一九五七年
  - 一一 寄附願(写)【複写資料】一九五七年一月二六日付
  - 一二 国有財産の一部を公園施設(市民球場)用地として使用することについて承認願【複写資料】一九五七年二月
  - 一三 市民球場建設直前の基町一帯【写真】時期不明
  - 一四 中国新聞記事にみる位置決定の経緯(①～④) 一九五五年一月～一九五六年七月
  - 一五 球場建設位置図【複写資料】一九五七年ごろ
  - 一六 旧市民球場新築工事図面(立面図)【複写資料】一九五七年ごろ

- 一七 工事中の市民球場【写真】 一九五七年三月十日
- 一八 広島市民球場建設工事竣功式一件 一九五七年
- 一九 竣工式当日の二軍戦チケット【複写資料】 一九五七年七月二三日
- 二〇 市民球場落成祝賀シリーズチケット【複写資料】 一九五七年
- 二一 広島市民球場竣工式の市長式辞 一九五七年七月二三日
- 二二 「野球界」第四七巻第九号臨時増刊・広島カープ新球場完成記念号、一九五七年八月 津田一男資料
- 二三 完成した旧市民球場【写真】 一九五七年七月二三日
- 二四 試合風景写真【写真】 一九五八年七月二〇日
- 二五 第二期工事完成後の旧市民球場【写真】 一九五八年七月二三日 広報謀撮影写真
- 二六 広島市民球場使用契約締結について(伺)【複写資料】 一九五七年七月十七日
- 二七 広島市民球場使用に関する契約書並びに覚書 一九六〇年四月一日
- 二八 広島市民球場敷地の土地使用料の支払いに関する覚書の取交わしについて(伺)【複写資料】 一九五八年十二月二日
- 二九 第一回広島市民球場運営委員会々議録について【複写資料】 一九五七年八月二八日
- 三〇 広島市民球場施設整備に伴う基金のとりくずしについて(伺) 一九八四年度、一九八五年度、一九八六年度
- 三一 基金積立額・とりくずし額の推移【図】
- 三二 内野スタンド二階増設工事写真【写真】 一九八四～一九八六年度
- 三三 電光式スコアボード新設等工事写真【写真】 一九九二年度
- 三四 市民球場使用状況並びに使用予定【複写資料】 一九五七年
- 三五 使用許可申請書 三三年度 一九五八年度
- 三六 広島アジア競技大会 野球競技運営マニュアル 一九九四年 アジア大会組織委員会 会文書
- 三七 一九九五年八・六「ヒロシマ平和祭」パンフレット・ポスター 一九九五年
- 三八 第十五回国民文化祭・ひろしま二〇〇〇 オープニング記念イベント概要計画 一九九九年十二月
- 三九 昭和三十三年 全国高等学校野球選手権広島大会決勝戦写真 一九五八年七月 明田弘司寄託資料
- 四〇 旧市民球場でのプロレス興行【写真】 一九六三年十月 市民局文化振興課所蔵

四一 「夢の球宴さだまさしチーム対松山千春チーム」会場風景【写真】 一九八二年十月十七日

四二 広島アジア競技大会開催時の旧市民球場【写真】 一九九四年十月十四日

四三 広島市民球場食堂及び売店の経営委託に関する契約書 一九五八年四月一日

四四 カープ販売部取扱品明細書【複写資料】 一九五七年七月二三日付

四五 平成二〇年度広島市民球場で販売する品目及び価格について承認願い 二〇〇八年三月二日付

四六 カープ選手のサイン入りボール 一九六八年か

四七 旧市民球場 カープ公式戦入場者数グラフ【図】

四八 カープ初優勝を喜ぶファン【写真】 一九七五年十月 玉田和則寄贈資料

四九 カープ初優勝を報じる新聞 一九七五年十月十六日付橋本政幸寄贈資料

五〇 一九七五年セントラルリーグ優勝記念広島東洋カープサイン色紙 一九七五年か

五一 日本シリーズ一件綴 一九七五～一九八六年度

五二 一九八四年度 広島東洋カープのセントラルリーグ優勝及び日本選手権シリーズ優勝記念碑除幕式及び記念植樹スナップ写真集 一九八四年

五三 昭和五十四年リーグ優勝・日本シリーズ前後の写真 一九八四年

五四 旧市民球場最後の公式戦【写真】 二〇〇八年九月二八日 広島市郷土資料館所蔵

主な参考文献

・広島市民球場管理事務所『広島市民球場のあゆみ―初編 開設二二年を経て―』(一九七八年十二月)

・広島市総務局市民球場管理事務所『広島市民球場概要』(一九九〇年二月)

・広島市郷土資料館編『増補 広島市民球場の記憶』(二〇一一年、広島市文化財団)

・広島高等学校野球部百年史編集委員会編『広島高等学校野球部百年史』

(二〇一二年、広陵学園)

・中国新聞社『カープの歩み ―一九四九―二〇一一―』(二〇一二年) 年表

年表 旧市民球場の足跡

和暦	西暦	月	日	できごと
昭和 32	1957	2	22	広島市民球場建設工事着工。起工式開催。
			7	20 第1期建設工事完了。観客定員は17,442人。
			22	竣工式開催。こけら落としとして、プロ野球広島－南海の二軍戦が開催される。途中、試合を中断してナイター点灯式を行う。
			24	初の公式戦（広島－阪神14回戦、ナイター）が開催される。
33	1958	4	30	第2期建設工事竣工。観客定員は24,500人となる。
			7	この年から全国高等学校野球選手権大会の県予選が広島市民球場で開催される。
			7	29 初めてオールスターゲーム（第2戦）が開催される。
34	1959	5		西日対策としてレフトスタンド後方に日除板を設置。
35	1960	11	30	初のサッカーの試合を開催。日ソ交歓サッカー試合として、全広島選抜軍－ロコモチフモスクワの試合が行われる。
37	1962	12	5	特別指定席増設工事竣工。観客定員は28,218人となる。
41	1966	6	28	第1回日本リーグ東西対抗戦（第1戦）が開催される。
49	1974	3	31	バックスタンド改修その他工事竣工。ベンチ・放送室等を改築し、ボックス席を増設。
50	1975	10		カープ、セ・リーグ初優勝。日本シリーズ第3～5戦が開催される。
52	1977	3	31	外野スタンド増設工事竣工。観客定員は31,726人となる。
53	1978	3	25	観客席増設工事・報道席改築工事竣工。観客定員は32,000人となる。
55	1980	7	15	身体障害者用観客席（1・3塁側に各3席）、同便所（1・3塁側に各1か所）を内野自由席に設置。
56	1981	3	31	内野スタンド増設工事竣工。定員は32,920人となる。
57	1982	3		内野スタンド格子取付工事が竣工（15日）。球場正面及び内外野園路緑地帯整備工事竣工（25日）。
61	1986	3	28	内野スタンド改修工事（第1期 二階席3塁側～ホーム）竣工（昭和59年度着工）。観客定員は28,759人となる。
62	1987	3	31	内野スタンド改修工事（第2期 二階席1塁側～ホーム）、トレーニング室増築等工事竣工。観客定員は31,984人となる。
63	1988	3	19	内野グラウンド改修工事竣工。
平成 5	1993	3		電光式スコアボード（初代）を設置。
			6	1994 10 広島アジア競技大会の野球競技会場（準決勝、3位決定戦、決勝、表彰式）として使用。
			17	2005 2 末 電光式スコアボードの改修工事竣工。放電管から発光ダイオード（LED）方式への切り替え。
			20	2008 9 28 公式戦最終試合を開催。対戦相手ヤクルトに6対3で勝利。
			21	2009 3 30 広島市民球場（マツダ zoom-zoom スタジアム広島）開場に伴い、呼称が「旧広島市民球場」となる。
			22	2010 7 最後の全国高等学校野球選手権大会広島県予選が行われる。
		9	1	旧広島市民球場閉場。